

第2章 市川市の文化的な特徴



いちかわかるた（詳細は p. 69 へ）
「地域遺産 地名に残る 塩づくり」

第2章 市川市の文化的な特徴

1. 市川市の文化振興のあゆみ

戦後、市民による自発的な文化芸術活動のもと多くの芸術文化団体が結成される中、昭和 49 (1974) 年に 13 の団体が参加する市川市芸術文化団体協議会が設立され、市の文化活動を牽引してきました。その後も市民による活発な文化活動が続き、日頃の文化創造活動の成果を発表する場と、質の高い展示や舞台芸術を鑑賞する機会を提供するため、現在まで継続して市と芸術文化団体が共催して「市川市芸術祭・文化祭」を行っています。「市川市芸術祭・文化祭」では、絵画や工芸をはじめさまざまな展示や演奏会、公演会など年間を通じ市内で行っているため、多彩な芸術に触れることができます。

市川市は平成 15 (2003) 年の「市川市文化振興ビジョン」策定以降、リーディングプログラム「街かどミュージアム構想」を推進するため、さまざまな文化施設の整備を進めてきました。平成 16 (2004) 年度に南部の文化活動の拠点となる市川市行徳公会堂（行徳文化ホール I&I）、寄贈を受けた民家等を活用した市川市芳澤ガーデンギャラリー・市川市木内ギャラリー・市川市郭沫若記念館・水木洋子邸、平成 17 (2005) 年度には市川市東山魁夷記念館が開館しました。その後、平成 25 (2013) 年度に市川市生涯学習センター（メディアパーク市川）内に市川市文学ミュージアムが開館したほか、市川市八幡市民会館（全日警ホール）の建て替えや市川市文化会館の大規模改修工事など文化活動の拠点となる施設の拡充・整備を進めてきました。令和 6 (2024) 年度には展示やワークショップなどに利用できる、市川駅前ミュージアムが新たにオープンしました。ソフト面では平成 16 (2004) 年度以降、市内エリアごとに街かどミュージアム構想懇談会を実施し、市民との意見交換をもとに街歩きのための案内板、「文化の街かど回遊マップ」、地域の Web サイト作りを行いました。

市事業として市ゆかりの文化人や芸術家を紹介する「市川の文化人展」、市ゆかりの作家の作品や資料を紹介する「市川市収蔵作品展」を継続して実施しているほか、平成 11 (1999) 年～28 (2016) 年の間に 19 回、市内各所で「街回遊展」を実施しました。平成 29 (2017) 年度に「文化イヤー2017」を実施したほか、令和 2 (2020) 年から「KUGURU 展」、令和 3 (2021) 年度はアーティスト・イン・レジデンス「Nakayama AIR」、令和 5 (2023) 年度には千葉県誕生 150 周年記念事業の一環として千葉県立現代産業科学館や周辺施設で現代アートの展示を行うなど、新たな取り組みを行いました。また令和 3 (2021) 年度に「いちかわデジタルミュージアム」を開設し、市の収蔵作品の一部をオンラインで鑑賞することが可能になりました。

2. 各エリアにおける文化について

北西部地域

このエリアは古くから人が住み続け、縄文時代の貝塚や博物館がある堀之内、万葉集の歌枕の地として知られ手児奈伝説が残る真間、大化の改新後は下総国の国府が置かれた国府台などがあります。国府台では戦国時代に後北条氏と里見氏が二度に渡り国府台合戦を繰り広げました。江戸時代に入ると市川の渡しに関所が置かれ、往来を厳しく監視しました。明治になると国府台には軍隊が駐屯し、第二次世界大戦後は跡地の大部分が学校になったため、今は学園地帯となっています。また北部の閑静な住宅街の周辺には歴史博物館、考古博物館があり、市川の歴史資料を展示・紹介しています。

【文化振興の拠点】

市川市芳澤ガーデンギャラリー、市川市木内ギャラリー、市川市郭沫若記念館、市立市川考古博物館、市立市川歴史博物館、市川公民館、西部公民館、市川駅南公民館、和洋女子大学文化資料館

【文化資源の一例】

真間の継橋、弘法寺、手児奈霊神堂、亀井院、文学の道、堀之内貝塚、下総国分寺跡附北下瓦窯跡、下総国分尼寺跡、下総総社跡、法皇塚古墳、六所神社、須和田遺跡、明戸古墳石棺、総寧寺、西洋館倶楽部、里見公園、紫烟草舎、市川関所跡、国分寺、国府神社、国府台辻切り、日本福音ルーテル教会会堂、茶道式正織部流



北東部地域

下総台地の典型的な自然といわれる湧き水、湿地、斜面林など、谷津の豊かな自然が残るエリアです。船橋法典駅を臨む高台に開けた緑地公園として、国指定史跡の姥山貝塚があるほか、指定文化財を持つ寺社が多くあります。

【文化振興の拠点】

市立市川自然博物館、市川市動植物園、市川市万葉植物園、市川市少年自然の家、柏井公民館、大野公民館、曾谷公民館

【文化資源の一例】

姥山貝塚、曾谷貝塚、木彫日蓮坐像、浄光寺二王像、庚申五層塔、駒形大神社、御奉謝、唱行寺、高圓寺（長寿藤）、子安神社、曾谷城跡、大野城跡



中部地域

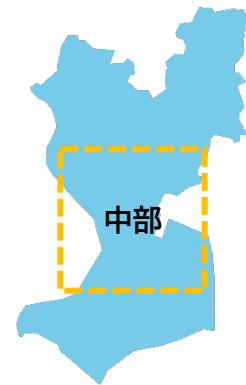
中山には国指定の文化財を多数保管する法華経寺や塔頭寺院があり、江戸時代頃より、千葉街道（国道14号線）から法華経寺に至る参道が門前町として賑わいました。また八幡にある葛飾八幡宮には樹齢1200年ともいわれる千本公孫樹のほか、随神門や梵鐘があります。

【文化振興の拠点】

市川市八幡市民会館（全日警ホール）、水木洋子邸、市川市文化会館、市川市生涯学習センター（メディアパーク市川）、市川市東山魁夷記念館、清華園、鬼高公民館、信篤公民館、東部公民館、若宮公民館、菅野公民館、市川市八幡市民交流館（八幡市民交流館 ニコット）

【文化資源の一例】

法華経寺（立正安国論、観心本尊抄、五重塔、法華堂、祖師堂、四足門、絹本著色十六羅漢像、日蓮自筆遺文、木造釈迦如来・多宝如来座像、黒門、本阿弥家分骨墓、光悦筆扁額、本阿弥光悦分骨墓）、浄光院（絹本著色日蓮聖人像、絹本著色十羅刹女像）、葛飾八幡宮（千本公孫樹、随神門）、八幡不知森、東昌寺、永井荷風終焉の地（第1庁舎書斎）、白幡天神社、鬼高遺跡、泰福寺（元弘の板碑）



南部地域

南部の行徳エリアはかつて幕府の直轄領として製塩が盛んに行われていました。行徳で生産された塩を直接江戸へ運ばせるため、多くの貨物運搬船や客船が往来したほか、成田詣に行く人々で賑わいました。行徳街道沿いには多くの歴史的建造物や寺社があり、神輿文化と地域で受け継がれてきた祭礼は、令和6（2024）年には市指定無形民俗文化財となっています。

【文化振興の拠点】

市川市行徳公会堂（行徳文化ホール I&I）、市川市行徳ふれあい伝承館、市川市行徳野鳥観察舎（あいねすと）、行徳公民館、本行徳公民館、幸公民館、南行徳公民館、神輿ミュージアム

【文化資源の一例】

行徳の神輿文化と祭礼（五ヶ町例大祭、四力村例大祭等）、常夜灯、妙好寺山門、権現道、法善寺（塩場寺）、徳願寺（山門、鐘楼、経蔵）、加藤家住宅主屋・煉瓦塀、源心寺（狩野浄天夫妻墓石・供養塔、六地藏）、善照寺（五智如来像）、新井寺（お経塚）、妙行寺（しだれ桜）

